部局名: 三朝医療センター

## 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 目 標 (部局での検証とそれに対する取組) ①教育領域 自己評価 ①-1 目標 1. 超高齢社会に対応できる医師および医療従事者を育成するために 1. 超高齢社会に対応できる医師および医療従事者を育成するために 1. 本年は、卒後臨床研修医等の受入れはなかった 学生・卒後研修医ならびにコメディカルに対する教育環境の体制整備を進 医師(教員)が2名の現在の体制では来年度も受け入れの見通しが立たない状況で めるべく努力をするとともに、教育プログラムの開発を目指す 独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよ 2. 独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院 び大学院保健学研究科との共同研究を発展させるとともに、低線量放射 保健学研究科との共同研究(極微量ウラン影響効果試験)を継続した。 線環境安全・安心工学研究教育において、当該分野に精通した技術者・ 研究者・医療従事者の育成を目指す。 ①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 学生実習の受入れ数増加 実習学生 2名程度 ③社会貢献(診療を含む)領域 自己評価 1. 老年期疾患の中で、特に慢性呼吸器疾患および肝疾患において、鳥取県中部 1. 外来診療のみではあるが、鳥取県中部地域において、入院機能補完 地域では中心的役割を担った。慢性呼吸器疾患に対して、在宅酸素療法11名、在 宅人工呼吸療法4名の実績があった。また、肝疾患においては、肝炎専門医療機関 のための実効性のある病病連携・病診連携を確立し、老年期疾患(呼吸器 疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など)を対象とした地域医 として中部の取り組みに積極的に協力している。 療の質の向上を図る。 ·ム医療の積極的取り組みを行うことによって,発展性のある外来診 2. 院内関連部署で話し合いを繰り返し行い、外来診療体制の再構築を行った。ま 療体制を確立し、患者の生活の質中心の医療に心がけ、高齢者にとって た、患者のQOL(生活の質)を重視し、行政機関、介護施設、他機関との連携を強 より安全・安心な医療の提供に努める。 化し患者への迅速な対応を行った。さらに、患者アンケート調査を2回にわたって行 い、患者満足度の向上につなげた。 3. 滞在型保養プランである「現代湯治・健康増進滞在プラン」の発展系と して、平成24年度より三朝町と共同で開始した「ラドン温泉鉱泥湿布施設 3. 現代湯治の発展系として、三朝町と「ラドン温泉鉱泥湿布施設活用事業」の事業 委託の契約を締結し、その中で「鉱泥湿布無料体験」を展開し、体験者は1,000名 活用事業」を継続・推進する。その中で、「鉱泥湿布無料体験」者の更なる 増加を図ることによって、外来患者の増加につなげる。温泉療法を活用す を超えた。さらに、1割の体験者は効果を実感し治療として、通院治療をしている。ま ることによって、より多くの人々の健康増進に寄与するとともに、地域活性 た、この委託事業は、来年度も引き続き継続することとなった 「鉱泥湿布無料体験」については、テレビ・新聞等で広く取り上げられ、全国的な知 名度アップにつながり、問い合わせが増加している。 化および病院経営改善への貢献に努める。 ③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 患者満足度アンケートの満足度向上 満足度90%以上 「鉱泥湿布無料体験」の利用者増加 400名程度

## 【総括記述欄】

三朝医療センターは、平成24年4月以降、外来診療のみを展開し今日に至っている。平成23年度4名の医師数が、平成24年4月から3名、8月から2名に削減されており、平成25年度も変更はない。現在勤務している2名のぎりぎりの努力により、外来患者数は昨年度とほぼ同等の数字を維持しているが、診療単価の減少に伴い、診療利益は下降傾向である。また、今年度も医療スタッフのモチベーションを維持・向上できるような外来診療体制を確立するため、センター内で「努力目標」を設定し、ニヶ月毎に行う「中間評価」と、目標達成予定時期に行う「最終評価」を行った。しかし、現在の三朝医療センターは、病床が廃止ではなく休止状態であるため、あくまで病院の人員配置が必要であり、医師数が2名では病院の要件を満たしていない。そのことについては、医療監査でも不備を指摘されており、現状の体制のまま運営することは、法令を違反し続けることになるため、早急に改善が必要であることを病院執行部には訴えてきたが、何ら取り組みがなされていない。現在の体制は確定的・永続的なものではないことを認識し、三朝医療センターの存廃も含め、大学として再検討することが急務であると考える。